

共に担うまちづくりを目指して

南丹市における市民参加と協働によるまちづくりの手法を検討するために設置された「市民と共に担うまちづくり手法検討委員会」。学識経験者や市民団体代表、公募で選ばれた市民と、行政職員からなる15人の委員により構成されています。平成20年9月5日に第1回目の委員会を開催して以来、約1年間にわたって市民が担うべきこと、行政が担うべきこと、市民と行政が協力して担うべきことなどを基本テーマに、何度も話し合いが重ねられてきました。

そして、ルールづくりや仕組みについて取りまとめられ、「南丹市



▲「提言書」を佐々木市長に手渡す中田副委員長（中央）

市民参加と協働の推進に関する条例」を制定することを提案した「提言書」が11月26日に佐々木市長に手渡されました。

今後は、条例制定に向けて具体的に進めていくとともに、市民の皆さんにも広く理解いただき活用されるように取り組んでいくこととなります。

人と人、人と地域、人とまちがつながり、共に責任を持ち協力し合える社会の実現のために、みんなの知恵と努力で市民参加や協働をはぐくんできていくことが、まちの活力を生むこととなるでしょう。

これからの「市民が共に進めるまちづくり」に期待

市民と共に担う

まちづくり手法検討委員会

委員長 新川 達郎 氏

(同志社大学大学院

総合政策科学研究科長)



私たち「市民と共に担うまちづくり手法検討委員会」は、1年余りの検討を経て提言書をまとめ、平成21年11月に市長に報告しました。

この提言では、「市民と共に担うまちづくり手法」の検討にあたって、まず市民参加と協働を進めるまちづくりの原則を明らかにしました。次に、市民参加と協働のルールづくりの重要なポイントを明らかにし、さらに市民参加と協働を進めるために必要な仕組みづくりの提案をしています。具体的には、市民参加協働推進条例の提案、市政への市民参加手法の整備、市による市民活動の支援策、市民自身がその活動を活発にしていける方策の提案をしています。その特徴は、単に市民参加と協働のルールづくりだけにとどまらず、市民がやるべきこと、そして市がやるべきことを、具体的に示そうとした点です。

南丹市には、形はさまざま違いますが、市民自身が地域づくりに積極的に活動してきた分厚い歴史がありますし、新しい市民活動やボランティア活動も活発になってきています。それを前提としながら、さらに発展させるにはどうしたらよいのか。また、合併によっ

て新たに生まれた南丹市として、どのようなまちづくりを市民と共に進めていくことが、より良い未来に結びつくのか。私たちは、一つの方向として、市民自身が市民の活動あるいは地域の活動を支え合うことが大切だと考え、そのための仕組みとしてまちづくり応援団や中間支援組織によるコーディネートなどを提案しました。そして行政は、こうした地域や市民活動を、『ヒト、モノ、場、カネ、情報』などの面で、具体的に支えることが大切だとしました。

これからの南丹市政においては、市民と共にまちづくりをしていくこと、そのとき市民参加と協働の原則に基づいて施策の展開をすることは、むしろ当然と言わねばなりません。その上で、具体的な成果を出していくことが望まれているのです。今後の南丹市のまちづくりは、市民と市が置かれている厳しい社会経済的条件の中で、それぞれの地域や一人一人の市民の力、また各種市民団体やボランティアグループの力を合わせ、それらを基盤として進めていくほかありません。南丹市政も市民と連携協力することで、はじめて効果的にまちづくりを進めていくことができます。